

言の発のきょう

名前を覚えな
い、物忘れが激し
くなったと感じた
のは、三十歳代半
ばに達した時だ。
記憶力のピーク
は、十歳代後半と
聞いたことがある
から、徐々に低下
するのは当然だと
思う一方で、若い
時の新鮮な脳細胞への郷愁もや
みがたく、一念発起、百人一首
の丸暗記に挑戦した。

丸暗記の方法は、実に簡単で
原始的なもの。本を買ってきて、
肌身離さず、寝ても覚めても、ひ
たすら第一首から順番に暗記す

るというやり方。五十首目以降
ともなると、新しい句を覚えてつ
つ、暗記した前の句を忘れるわ
けで最後には覚える量と忘れる
量との競争になってしまった。
そして、百人一首を第一首か
ら順番通りに言えた時には、さ

リズム感

すがに感動した。もっとも、そ
れは夏のセミの命のように、わ
ずかしかったなかつたが。

しかし、その時、新たな発見
があった。五七五七七のリズム
が体に乗り移ったのだらう、難
しいと思ひ込んでいた短歌が質
はともかく詠めるようになっ

た。セミの命の記憶力とはいえ、
努力が報われたと思った。

その時の経験から、リズムが
大切なものに思えてきた。また、
リズムは体で覚えるものと悟っ
た。仕事もスポーツも、慣れて
くると、無駄な動きがなくなる
し、動作にはリズム感さえ出て
くる。この点、現在のような情
報過多の時代は、本質的なもの
を見つけにくい分だけ、リズム
感のある生活や仕事をするこ
とは簡単ではない。

それだけに、生活を単純化、
純粋化して、自然で、軽快で、
心地よく、そしてリズムミカルな
生活をするのが、今抱えている
私のぜいたくな夢である。

かめい 亀井 創太郎 (井通産)
創太郎 (井通産)
かめい 亀井